

境川〈さかいがわ〉

「三の谷のむこう、鉢伏山の西を流れて海い（へ）入る川を境川〈さかいがわ〉いうてよぶんや。太閤〈たいこう〉さんのところから、摂津〈せつつ〉の国と播磨〈はりま〉の国のさかいが、この川の流れに決められたんや。徳川〈とくがわ〉時代にはなあ、川の東に松の木植えてな、西がわには梅〈うめ〉、植えとったんや。須磨の漁師〈りょうし〉と、塩屋〈しおや〉の漁師が、こっから（ここから）こっちはうちの漁場や、ゆうてわかるようになあ。海の船から、松と梅の木イ（を）見て、村の境を知られるようにしとったんやと。」